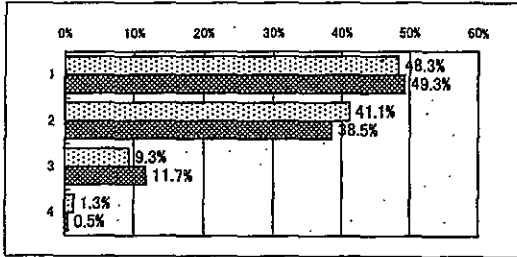


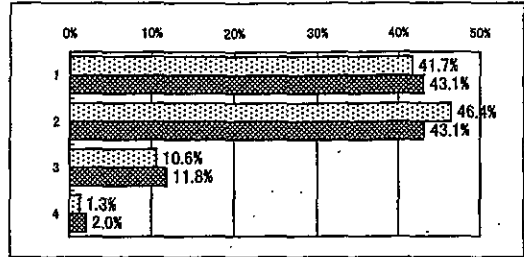
# 情報科

凡例: □ 7月      解答: 1. そうである  
          ■ 12月      2. ほぼそうである  
                         3. あまりそうでない  
                         4. 全くそうでない

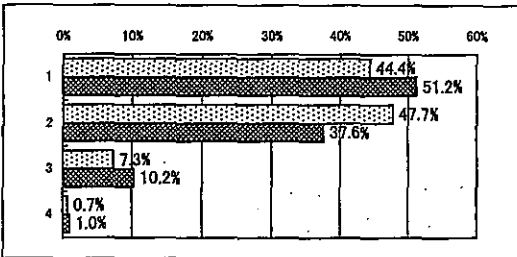
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



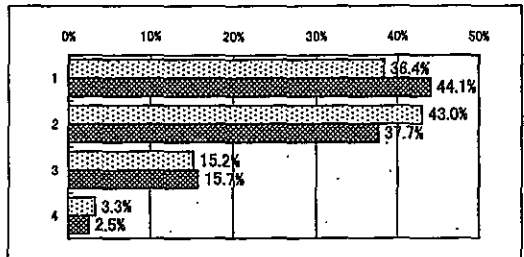
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど)やマナー違反(飲食、漫画、化粧など)をしていない。



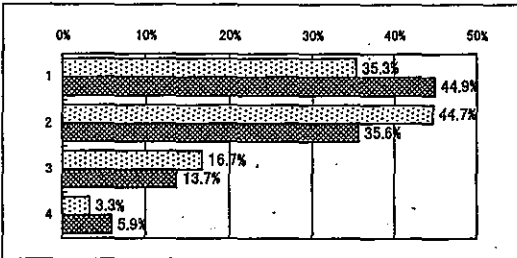
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



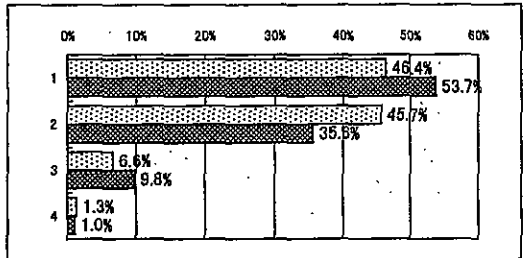
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



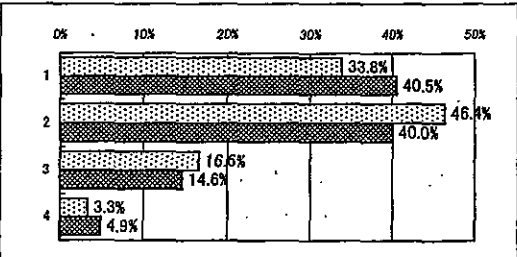
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



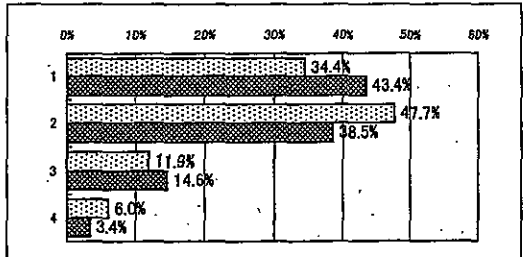
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切に授業に活かそうとしている。



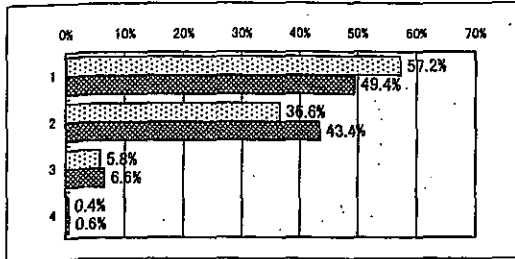
昨年度との比較・分析	○昨年度と比較し、全般的に生徒の意識が良い方向に変わってきている。授業スタイルが浸透してきたものと思われる。
前期/後期の比較・分析	○生徒も前期に比べ情報の授業スタイルになれたせいもあり、全体的に「そうである」の割合が増したと思われる。一方で、設問4および7で「あまりそうではない」と「全くそうではない」の合計が約2割あり、その結果が設問5における約2割の生徒の理解力不足という結果になっていると思われる。
その他 気付いた点、 課題等	<今後の課題> ○上記の生徒に対するフォローを行うためには、生徒同士の指導(教えあう力)の育成や、教員体制(1クラス3名TTが望ましい)の改善等も考えていきたい。

## 総合的な学習の時間(A)

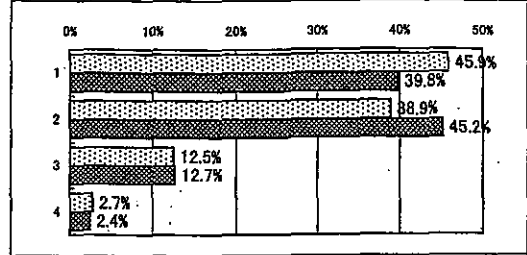
凡例: □ 7月  
■ 12月

解答: 1. そうである  
2. ほぼそうである  
3. あまりそうでない  
4. 全くそうでない

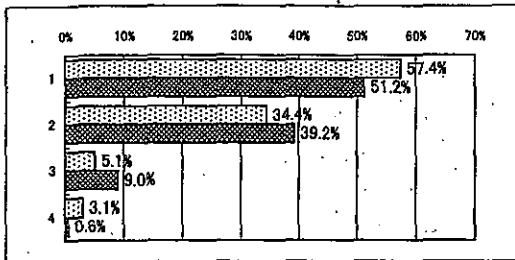
Q1 あなたは授業にきちんと参加し、指示された学習を行っている。



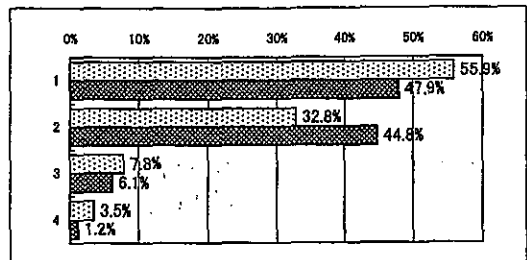
Q2 あなたは授業中に授業の妨げとなる行い(携帯電話、携帯音楽プレーヤー、私語、立ち歩きなど)やマナー違反(飲食、漫画、化粧など)をしていない。



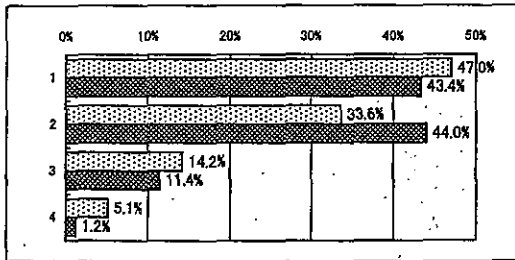
Q3 先生は授業のために十分な準備をしていると思う。



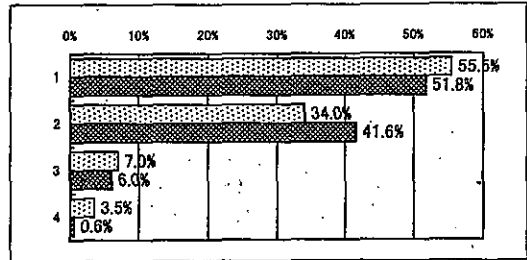
Q4 授業の進度、進め方は適切である。



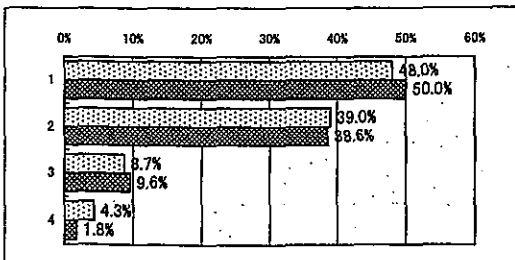
Q5 「わかる」「できる」が感じられる授業である。



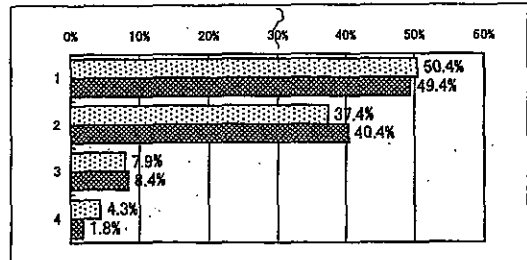
Q6 授業の中に自分で考えて学習したり活動したりする時間がある。



Q7 先生の説明や授業中の指示はわかりやすい。



Q8 先生は生徒の発言を大切にして授業に活かそうとしている。



昨年度との比較・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年度の課題をふまえてテキストを書き込み中心から、思考問題やクイズ等を加えたものにしたため、Q6、7での授業に対する肯定的な評価が大幅に増えた。</li> <li>○生徒の活発な発言や主体的参加を増やそうとする授業展開にしたため、昨年度よりQ8での否定的な評価が減少し肯定的な評価が増加した。</li> </ul>
前期/後期の比較・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肯定的な評価と否定的な評価の割合は前後期を比較してさほど差がなかった。</li> <li>○Q3で否定的な評価が微増し、Q7で否定的な評価が微減しているのは、前期は行事が集中し、主体的学習が多かったことと後期はテキスト中心の授業で課題にじっくり取り組めたためと考えられる。</li> </ul>
その他気付いた点、課題等	<p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行事や課題が集中しすぎないように配列や内容を検討する。</li> <li>○生徒の実生活に即した課題を提示できるよう、教材の研究に努めていきたい。</li> </ul>

平成 19 年度

神奈川県立田奈高等学校

「学力向上拠点形成事業」実践研究報告書（2 年次）  
（確かな学力育成のための実践研究事業）

発行日 平成 20 年 3 月 31 日

発行者 神奈川県立田奈高等学校

校長 中田 正敏

編集者 神奈川県立田奈高等学校

研究開発グループ

神奈川県立田奈高等学校

〒227-0034 横浜市青葉区桂台 2-39-2

電話 045-962-3135

FAX 045-962-9039

<http://www.tana-h.pen-kanagawa.ed.jp/>